



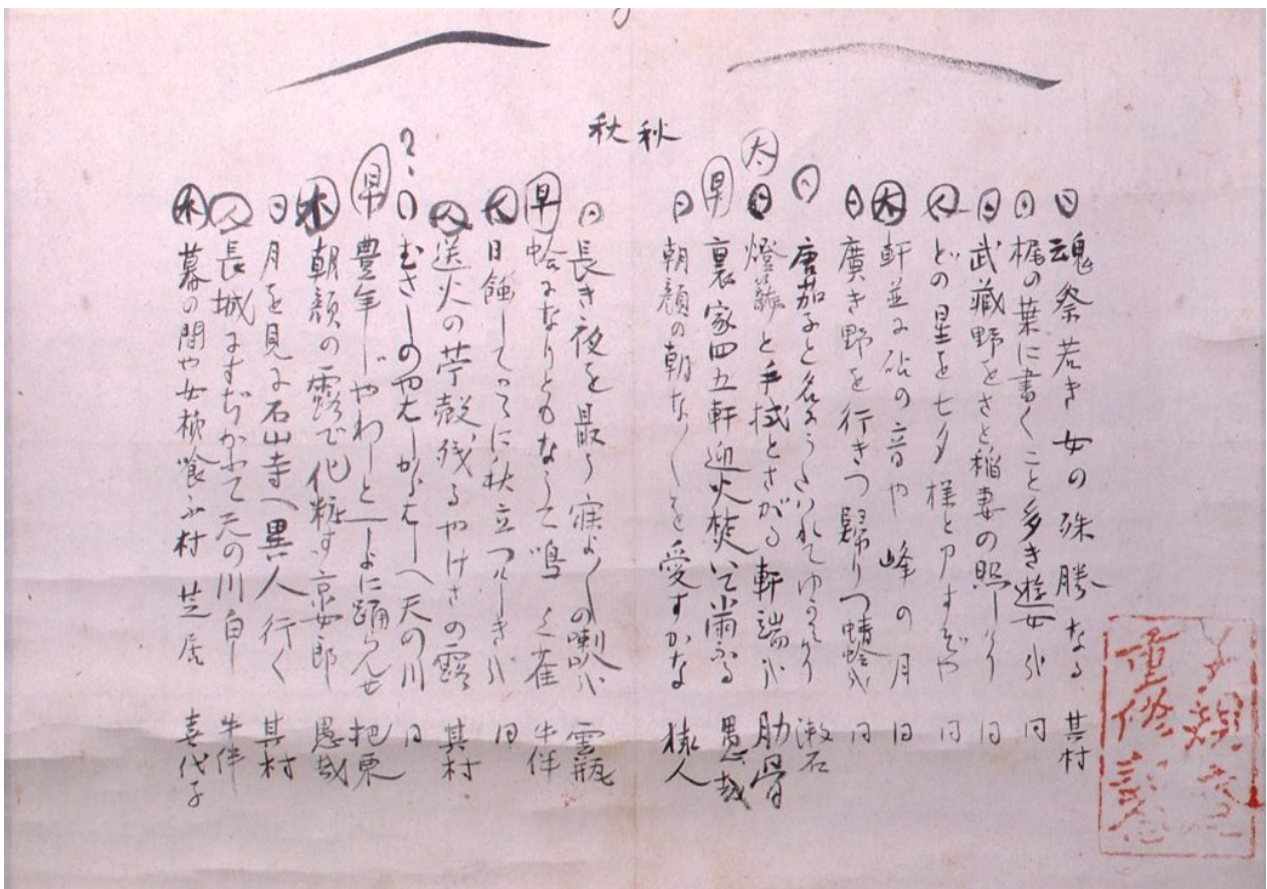


# 【子規との出会い】

明治二十三年従兄で常盤会寄宿舎監督の内藤鳴雪を訪問した際、正岡子規を知り、以後子規に俳句を学び親交を深めます。この頃、子規と邦画洋画の優劣を論じ、子規に洋画の目をひらかせたとされています。

明治二十六年春の句会で、「牛伴」の号が初見されるなど、俳句へ傾倒していきました。

一方、子規が編集責任者を務めていた新聞「小日本」の俳句欄の挿絵について子規からの手紙での依頼に対し、画材を指定されるのを嫌い断るなど、画家としての気骨ある逸話も残っています。



子規選句稿「承露盤」 (松山市立子規記念博物館所蔵)

# 句会の様子



為山画河東碧梧桐賛「俳句革新記念子規庵句会写生図」

(松山市立子規記念博物館所蔵)